

2年 扇の的 光村図書出版

本時のねらい

作品の特徴を活かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。

デジタル教科書（+教材）活用の意図

中学生が古典の世界に親しむ際には、様々な難しさがある。特に言葉遣いの違いと時代背景の知識は、その大きな壁となることがある。これら乗り越えるには、デジタル教科書のツールが有効だ。

古文の音読について、これまでの学習では、教師が範読を行い、生徒がそれに続いて音読する方法が取られてきた。しかし、生徒が一度の聞き取りで適切に音読できるようになるのは難しい。デジタル教科書の音読ツールを使用すれば、生徒は自分のペースで繰り返し聴くことができ、音読の能力を向上させることができる。

時代背景の理解についても、教師が言葉のみで説明するより、具体的な映像を紹介した方が理解が容易になる。デジタル教科書には、背景知識を補う映像資料が豊富に用意されており、これを活用して古文の理解を深めることが可能だ。

このように音読の支援と背景知識の支援を受けた生徒は、古典に対する親しみをもち始めることができる。その興味関心を活かして、さらにデジタル教科書の発展資料にも自ら手を伸ばし、個々の学びを拡げていくことを促したい。

国語科におけるスタンダードのデジタル教科書（+教材）活用のポイントは、ここだ！

1. 音声読み上げ、朗読機能を活用して、聴いて味わう

生徒は音声読み上げ機能を利用して、朗読音声に耳を傾けながらテキストを追うことで、理解をより促進することができる。このような音声によるサポートで、テキストの内容が生徒にとって身近なものとなり、単に目で追うだけでなく、耳で聴くことによっても内容理解が促される。「平家物語」はそもそも文字言語ではなく音声言語（語り）によって多くの人に愛されてきた作品である。プロの読み手による「平家物語」の巧みな語りに触れることで、語り物語としての作品の魅力や古文の文体に身体で味わい、更にそれを自らも音読をして親しむことで、より一層作品の世界に近づくことができるようになるだろう。

2. 文学作品の内容を整理・共有して理解を深める

デジタル教科書には動画や写真などの豊富な参考資料が掲載されている。これらの資料を活用することで、作品の背景知識を深く理解し、鑑賞の深度を増すことができる。このような多様な資料を閲覧することで、教材文だけでは得られない情報や視点が得られ、作品の多面的な理解が促される。

3. 紙面に書き込むことで理解を可視化する

デジタル教科書には直接線を引いたりマークをつけたりするなどして重要な部分を際立たせることができる。また、気軽に書き込みや書き直しを行い、自分の理解や考えを可視化することが可能だ。付箋を利用することでコメントや注釈を追加することもできる。これにより、生徒は本文に即して内容を理解する姿勢を持続させることができ、情報の整理や深化を助ける手段として活用できる。

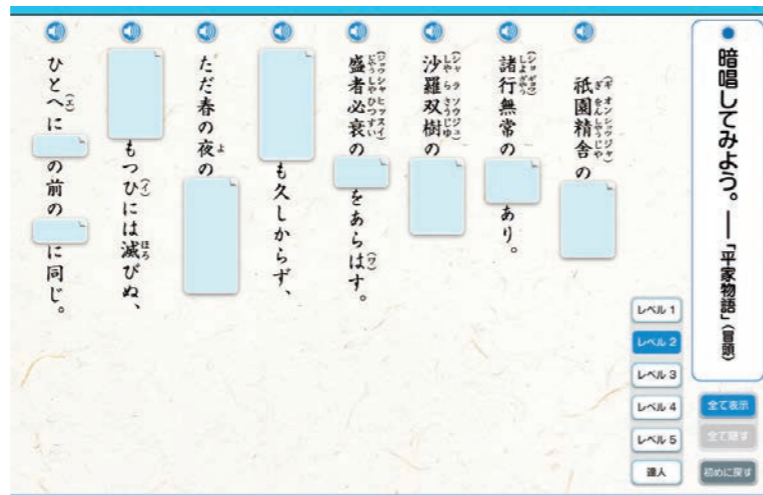
●学習活動（学習形態、学習活動内容）

学習活動 (学習形態・学習活動内容)	デジタル教科書+教材活用部分	留意点
「扇の的」の設定を確認し、資料映像を全体視聴して背景知識を確認する。	「平家物語」の資料映像を見る。 	全体視聴したあとで、「登場人物の関係を整理しよう」のツールを使うなどして人物設定を確認すると良い。 
グループや各自で音読練習をする。	何度も繰り返し聴いて音読を練習する。 	はじめは全体で、その後、グループ、ペア、個人へと変化をつけると集中して取り組める。
「扇の的」を音読する。他の場面を選んでグループで役割読みをする。(ロイロノート・スクール(以下、ロイロノート)に録音をする)	デジタル教科書の音声聞きながら、グループで音読練習に取り組む。 	「声優になろう」という活動の設定で、思いを込めて音読するようにさせる。グループ内で表現を練り上げる。

(光村図書出版 2年 pp.148-149, pp.151-157 デジタル教材)

事例1 〈第2学年〉「平家物語」暗唱してみよう

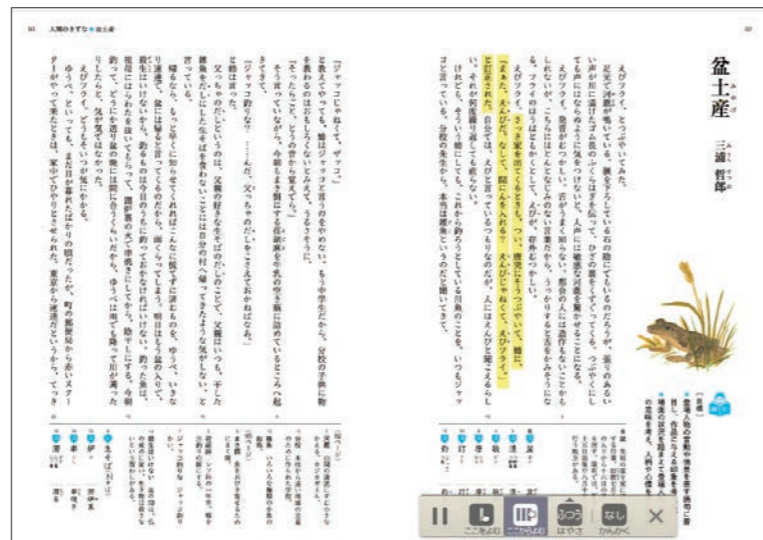
デジタル教科書には、生徒が暗唱を効率的に練習できるツールが搭載されている。このツールは、生徒の学習進度に応じて、暗唱する詩句の難易度を調整する機能を備えている。音読を何度も聞き返しながら、リズムやイントネーションを身に付ける訓練が可能だ。生徒は自らのペースで練習を重ねることができ、音読の正確性を高め、暗唱する古文の響きの美しさを体感することができる。



(光村図書出版2年 p.150 デジタル教材)

事例2 〈第2学年〉「盆土産」朗読音声を聴いて味わう

「盆土産」における方言の使用は、作品の魅力の一つである。文章を文字で読むだけでなく、音声を通じて方言の独特な響きを味わうとよりその魅力に迫れる。デジタル教科書の音声機能を活用すれば、その地域特有の言葉のニュアンスやイントネーションをより深く理解し、親しみを感じることができる。家族間の温かみのある会話のやり取りをゆったりと聴きながら、生徒たちは方言の良さを感じとることができる。

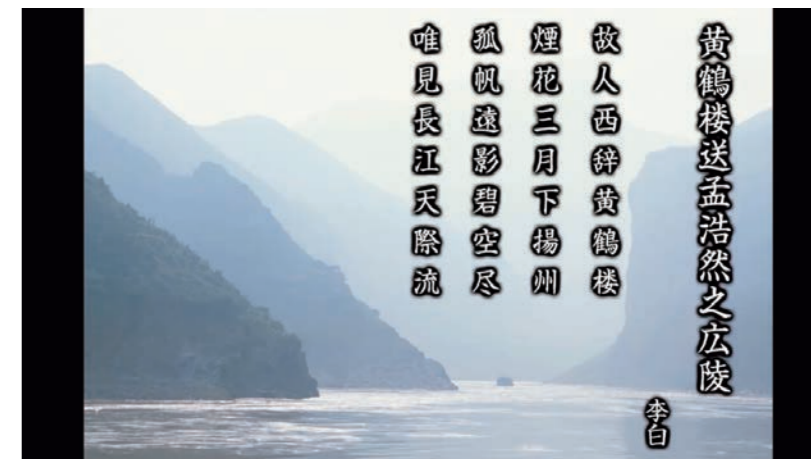


(同2年 pp.92-93)

事例3 〈第2学年〉「漢詩の風景」資料映像をみてイメージを掴む

「漢詩の風景」の映像を通じて、単に文字としての詩を読むだけでなく、詩が生まれた環境とその背後にある歴史や文化を体感することができるようになる。詩が語る自然の美しさや、古代の人々の感情をよりリアルに想像し、漢詩の情緒を豊かに感じ取ることが可能になる。

映像資料には、古代中国の風土を捉えた現地の映像が含まれており、それに合わせて日本語と中国語の両方で詩の朗読が行われている。日本語での朗読によって漢詩の意味を深く理解し、中国語での朗読を聞くことで、押韻などの響きとリズムを通じて漢詩の美しさを直接耳で感じることができる。



(同2年 pp.162-168 デジタル教材)

事例4 〈第3学年〉「故郷」資料映像を見て時代背景を知る

「故郷」を理解する上で時代背景は不可欠な要素である。デジタル教科書で映像資料を提供することで、文学作品の理解を助ける。映像は、当時の社会情勢や文化、人々の生活様式を視覚的に示すことで、読者が作品の世界に深く入り込む手助けをする。特に「故郷」のような作品では、その時代特有の感情や風習が文中に織り込まれているため、映像を通じてそれらを目の当たりにすることで、作品の文脈をより深く掘り下げ、理解を一層深めることができる。



(同3年 pp.98-113 デジタル教材)

2年 盆土産(各自の視点・方法で小説を読み深めよう) 光村図書出版

本時のねらい

- 登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、作品に与える印象を考える。
- 場面の状況を踏まえて登場人物の言動の意味を考え、人柄や心情を考える。

デジタル教科書 (+教材) 活用の意図

「盆土産」は学習者にとって様々な切り口で読み深めることのできる奥行きのある文学作品である。そこで、学習者の関心に柔軟に対応するため、デジタル教科書の多様なツールを最大限に活用し、より深い読みに導くことができるような授業デザインを試みた。具体的には、生徒が教科書の本文を一度読み終わった後、自らの関心に基づき2つの異なるアプローチから学習を深めることができるよう配慮した。一つ目のアプローチは、教材文全体の構成を整理し、その流れや構造を理解するもの。二つ目は、登場人物やその関係性を詳細に分析するものである。生徒は、これらのアプローチのどちらかを選び、それに基づいた学習活動に取り組んだ。整理・分析した結果や気づきを小グループ(3~4人)で共有し、それぞれの視点や解釈を交流することで、さらに深い理解を追求していくことを意図した。

後半の学習では、初読時の感想を生成AIを用いて分析したものを活用した。AIによる分析を基に、複数の探究テーマ例を生徒に提示し、それを参考に、生徒は教材文をさらに深く読み進めていく。個々の探究テーマの掘り下げには「マイ黒板」を用い、テーマに関連する叙述を抽出し、それを手書きや図形等、思い思いの方法で整理しながら自らの考えを構築していった。このように、デジタル教科書の様々なツールを活用しつつ、自分なりに読み深めた内容をもとに文学作品を鑑賞していった。

国語科におけるエクストラのデジタル教科書 (+教材) 活用のポイントは、ここだ!

1. 複数のアプローチから作品に迫る

デジタル教科書にあるさまざまなツールを選択することで、個に応じた、あらずし、文章構成や人物設定を整理する学習に取り組むことができる。様々なアプローチから整理した内容を小グループ内で共有することで、お互いの解釈や視点を交流し、理解がより豊かになることが期待できる。この共有のプロセスは、異なる視点や考え方の出会いを通じて、自らの解釈を再評価する機会となる。

2. テーマを設定して叙述を丁寧に抽出、整理し、自らの考えを展開する

学習者は自らが設定したテーマに沿って、叙述を丹念に抽出し、整理する活動に取り組む。叙述を選び出し、それを自己の言葉で再構築することで、文学作品の多様な読みを解き明かし、まとめあげる力が養われる。この学習では、生徒が初読の感想を書いたら、それをGoogle Formsで集め、さらに生成AI(ChatGPT)によって整理し、さらに複数の問い、テーマ例の形で集約して提示した。生徒はそのテーマ例を参考に自らのテーマに沿って「マイ黒板」で叙述を抽出し、構造化した。「マイ黒板」は自由度が高いインターフェースであるので、叙述の抽出だけでなく、配置や書き込みも自由に行える。学習者はこれらの機能を活かして直感的に叙述を整理、構造化していき、自らの考えが論理だったものとなるように組み立てていった。最終的には、整理した「マイ黒板」上の情報を元に、Google Docsでひとまとまりの文章で「令和の時代に『盆土産』を読む価値とは?」という課題に対する自らの解釈を披露し、作品を批評した。

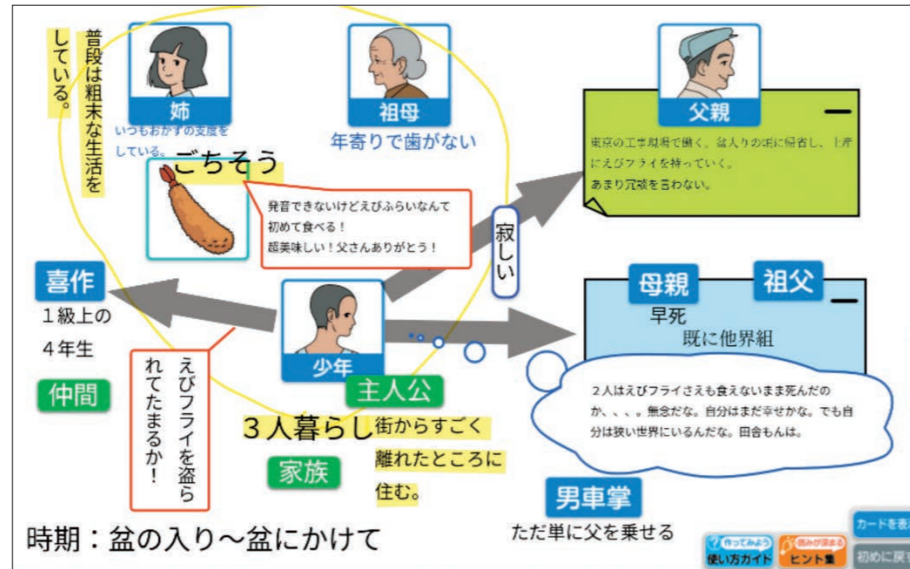
●学習活動 (学習形態, 学習活動内容)

学習活動 (学習形態・学習活動内容)	デジタル教科書+教材活用部分	留意点
本文を読み、初読の感想を書く。	朗読音声を聴いて味わう。(一斉) 気になる表現に書き込みをする。	感想はGoogle Formsで集約し、さらにそこから生成AIで整理して読み深めるテーマを集約しておく。
個々の関心に応じて作品の構成、もしくは登場人物を整理する。 (どちらかを選んで取り組む)	「作品の人物設定をとらえる」、もしくは「作品の構成/展開を捉える」の学習に取り組む。 	一つの画面で作品世界全体を表現するようにさせる。 整理したら、スクリーンショットを撮り、Google Slides上に貼り付けてクラス全体で共有する。
テーマを各自で設定し、テーマに沿って叙述を整理する。	テーマに沿って「マイ黒板」に叙述をまとめる。 Google Docsに自分の考えを整理する。 	叙述を貼り付けるだけでなく、情報を整理するようにさせる。
テーマは初読の感想をAIが読み込み、それを集約したものを提示した。 (例) AIが例示したもの 1. 「家族の愛」の表現とその意味 2. 時代背景と家族の生活 3. 方言と人物像 4. 「期待と現実」のギャップ 5. 物語の「言われざるメッセージ」		
パフォーマンス課題「令和の現代に、この『盆土産』を読む価値はどこにあるのか?」について、これまでの学習を踏まえて自分の考えを表現する。		「マイ黒板」の画像をGoogle Docsに貼り、前時に整理した内容を踏まえて考えを深めるようにする。

(光村図書出版2年 pp.92-105 デジタル教材)

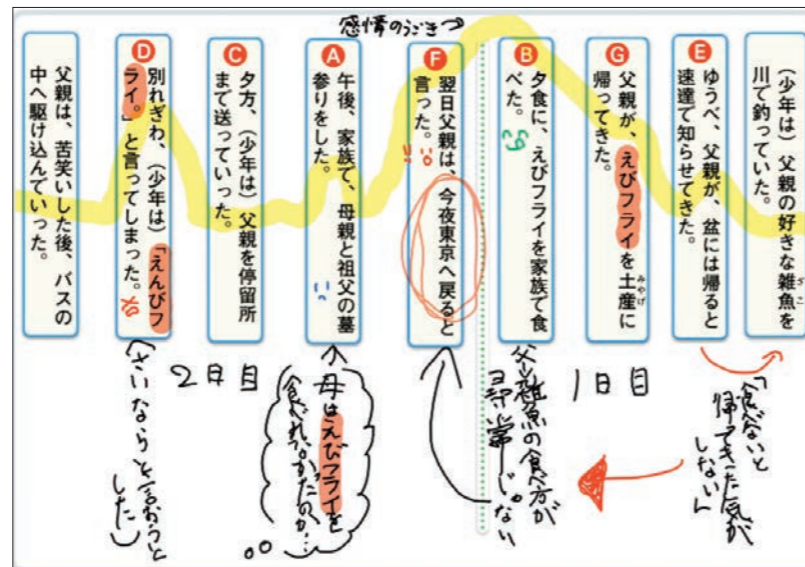
事例1 〈第2学年〉「盆土産」作品の人物設定をとらえる

「登場人物の関係を整理しよう」のツールを使い、画面一枚で作品の世界や設定（時・場所・人物）を表現するようにした。手書き機能や直接テキストを入力できる機能などを駆使して、生徒は思い思いに作品の世界をビジュアルに表現していった。



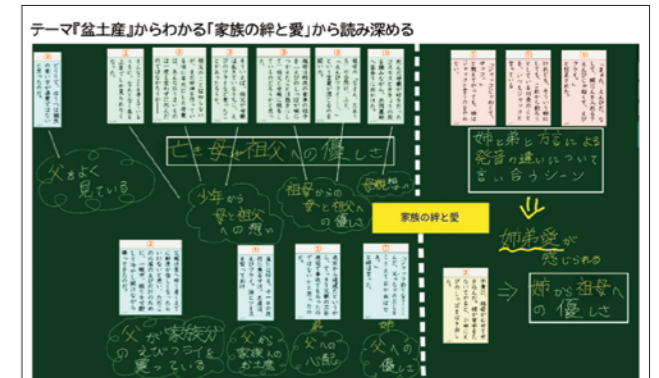
事例2 〈第2学年〉「盆土産」作品の構成や展開をとらえる

あらすじを並び替えて整理するツールを活用し、自分なりに捉えた作品の構成や展開を画面一枚で表現するようにした。感情の揺れ動きを心情曲線で表現する生徒、場面の転換を線を引いて示す生徒、つぶやきを書き込む生徒など、小学校やこれまでの国語科の学びを活かして様々な方法で工夫して表現していた。



事例3 〈第2学年〉「盆土産」叙述を元に自分の考えをまとめる

テーマに沿って自分の考えをまとめる際に「マイ黒板」を活用した。叙述を丁寧に拾い上げ、更にそれを並び替えたりすることを通して情報を関連付けるなどして整理し、読み取ったことや解釈をまとめていった。最終的には文章の形で自分の考えを表現した。

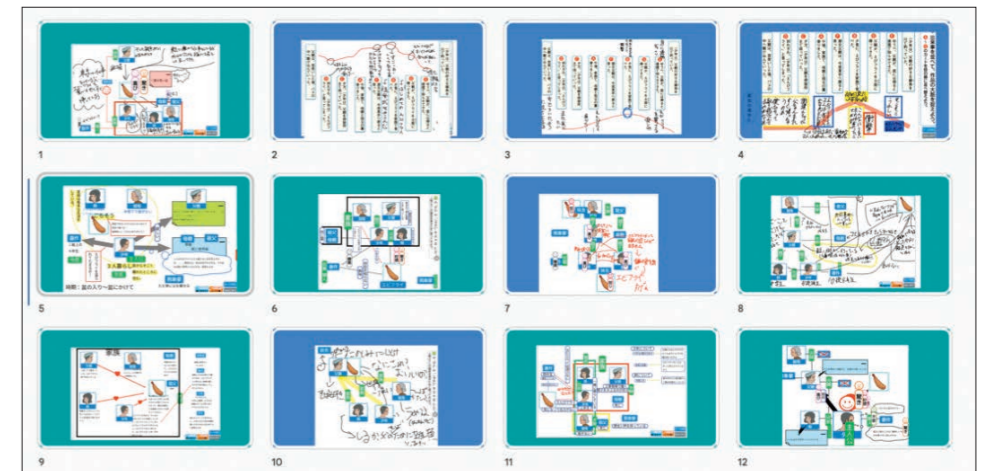


今、令和を生きている私達が昭和の小説である「盆土産」を読む価値はどこにあるのだろうか。それを私は「家族の絆と愛」という観点から考えてみた。「盆土産」は、主人公である弟や姉、父、祖母などの家族の絆や愛についてとてもよく書かれている。特に会話の中からそれを読み取ることができる。例えば92ページに書かれている弟と姉の会話からは方言による発音の違いについて言い合っているのが読み取れ、互いに「えびフライ」と「雑魚」の発音が違っていることについて書かれている。そこから私は「姉弟愛」を感じた。なぜならお互い間違えているのに言い合っているのが可愛らしく、愛を感じることができたからだ。これは現代にもある現象で私も妹とよく言い合いをするがたいていどちらもお互い様の結果になる。今まではこれを喧嘩だと思っていたが実は愛だったのかなと気付かされた。喧嘩するほど仲が良いとはきっとこのことだろう。次に父親と子供たちの間の愛について読み取る。父親は生活が貧しいため都会に出稼ぎに行き、子供達と離れてしまっている。そこで毎回「えびフライ」のようなお土産を子供達のために買って来ている。そこから私は父親が「えびフライ」を通して子供達と繋がっているように感じた。きっと子供達が大切だから苦しい生活の中でも「お土産」を買ってくるのだろう。この「お土産」は単に子供達を喜ばせるだけでなく、親からのとびっきり愛なのだと考えられる。現代には「お土産」に似たようなもので誕生日の人にお祝いとして渡す「誕生日プレゼント」が存在する。これはサプライズで渡すもので、「お土産」と同じように中身が分からない。だからもらった時にあまり欲しくなかったものが入っている可能性もある。しかし、渡してくれた子

考えをまとめたマイ黒板をキャプチャし、Google Slides に貼り付けた画面

事例4 〈第2学年〉デジタル教科書で整理した成果物をクラウド上で共有する

デジタル教科書単体では、他の生徒と成果を共有することが難しい。そこで、Google Slides などのクラウドのアプリケーションを使い、データを相互に紹介しあえるように留意した。また、「事例3」のように、Google Docs 上にデジタル教科書の画像を貼り付けて、Google Classroom 上で提出させることで、デジタル教科書を活用した学びがどのようにパフォーマンス課題に生かされたか見取ることができるようにした。



(光村図書出版 2年 pp.92-105 デジタル教材)